



近視眼サクヒン「X」
鈴木サトシ：写真・文
さまざまな画像処理を施した写真が簡単に制作できるようになった中、あくまでリアリティにこだわった写真集。掲載されている不思議な形の被写体は鈴木氏自身によって作られ実在する。鈴木氏は現在牛窓に在住。

お飾りを作ろう

わくわくチャレンジ

親子が一緒になって楽しめる公民館講座「わくわくチャレンジ」を開催します。12月は、お飾り作りに挑戦します。

わからず縄をない、その縄をより合わせてお飾りの形に編んでいきます。講師が丁寧に教えてくれるため、初めての人も安心です。

自分で作ったお飾りを飾って新しい年を迎えましょう。

- ▽日時 12月10日(土) 午後1時30分～午後3時30分
- ▽場所 長船町公民館
- ▽講師 岡村順信さんほか
- ▽参加費 100円(材料代)
- ▽申込期限 12月8日(木)
- 問い合わせ・申込先 長船町公民館

一緒に考えてみませんか 学校図書館と子どもたちの学び

学校図書館は、子どもたちの学びに大きく関わっています。瀬戸内市立図書館と瀬戸内市教育研修所では、子どもたちの未来と学校図書館について考えることを目的として、「学校図書館と子どもたちの学び」と題し、講演やパネルディスカッションなどを行います。参加費は無料で、どなたでも参加できます。

館を住民運動の立場からみつめてきた漆原宏氏の写真展を開催しています。また漆原氏による講演会では、図書館の魅力とこれからの図書館の在り方、施設づくりや利用法などをお話しします。お気軽にご参加ください。

- ・講師 広瀬恒子氏(親子読書地域文庫全国連絡会代表)
- 【事例報告】
- ・樋野義之氏(島根県松江市立揖屋小学校司書教諭)
- ・門脇久美子氏(島根県松江市立揖屋小学校司書)
- 【パネルディスカッション】
- 広瀬氏、樋野氏、門脇氏、市内図書館関係者
- 問い合わせ先 中央公民館

- ▽期間・場所 12月9日(金)まで 長船町公民館
- ・12月16日(金)～25日(日) 瀬戸内市立美術館、牛窓町公民館図書室
- ▽入場料 無料
- 【講演会】
- ▽日時 12月18日(日) 午後1時30分～午後3時
- ▽場所 瀬戸内市立美術館
- ▽参加費 無料
- 問い合わせ先 中央公民館

- ▽日時 平成24年1月6日(金) 午後1時30分
- ▽場所 中央公民館
- ▽内容
- 【基調講演】
- ・タイトル「子どものゆたかな育ちと学びをねがって」
- 写真家として、30年間全国の図書館を撮影し続け、図書

- 暮らした図書館を
- 漆原宏写真展・講演会

- 上を向いて歩こう! のぶみ…作

上を向いて歩こう! のぶみ…作

作者である絵本作家のぶみの東日本大震災の被災地でのボランティア活動の記録。思わぬ批判を受け、葛藤を抱えながらも、ヘドロと格闘し被災者の声を聞き、最後にたどり着いた気持ちは…。作者は現在もボランティア活動を継続中。



Books



巻の八十三



黒井千左氏作陶風景

瀬戸内市美術館企画展 虫明焼 黒井千左作陶展

虫明焼作家の黒井千左氏(邑久町虫明在住)が、3月4日に岡山県指定重要無形文化財虫明焼制作技術の保持者に認定されました。これを記念して、瀬戸内市立美術館では、企画展を開催します。

虫明焼の歴史

虫明焼は、江戸時代中期に岡山藩筆頭家老で邑久町虫明に陣屋を構えた伊木家の御庭窯として始まったといわれています。窯の歴史は、一時途絶えたり、復興したりと、時代の変遷に左右されます。

江戸時代末期、茶人としても有名な伊木忠澄(のちに三猿齋と号す)は、京都から名工初代清風与平を招聘し主に茶陶を焼かせています。同じく京都の名工真葛香山(宮川香山)も来窯し、12ヶ月茶碗、雁の絵細水指など茶人好みの作品を残しています。忠澄自らも手捻りなどを楽しんでいます。

江戸時代末の動乱期には、御庭焼を焼いている余裕のなくなった伊木家から虫明の森角太郎に窯が譲られ民窯として再出発します。角太郎は、真葛に陶技を学

びつつ窯の経営を行い虫明焼の隆盛を目指しましたが、経営難に陥りました。

一時途絶えていましたが、角太郎の子、森香州が再び窯を再興し、経営をはじめました。香州は、経営者としては苦勞しましたが、陶工としては、薄作りの茶碗・水指・煎茶器など多くの名品を残しています。

再び途絶えていた虫明焼を



「変変カタクリ文茶盃」黒井千左作

復興するため地元有志により英田郡出身の陶工岡本英山を招聘しました。英山は素朴で力強い作品を数多く作り虫明焼の名を高めました。

これとは別に森香州の弟子となった横山香宝が虫明に窯を築き清風や真葛を写した優雅な作品を残しています。

香宝の弟子となったのが黒井千左氏の父、黒井一楽です。一楽は昭和55年に岡山県指定重要無形文化財に認定され主に茶陶を焼きました。

茶器として

虫明焼は、釉薬と呼ばれるうわぐすりを掛けた京焼系の優美な焼き物で、清風与平や真葛香山らの名工の作品によ

りその名声は高まったといわれ、茶碗や水指など茶道具として人気を得ています。虫明焼は、岡山県内でも特徴ある伝統的工芸品として位置づけられ昭和63年に岡山県知事指定郷土伝統的工芸品として指定されています。

技法について

虫明焼を特徴付ける釉薬は、松の灰にさまざまな材料を混ぜて作られます。調合する材料の割合、釉薬の重ね具合、焼くときの温度、冷まし方によって発色がまったく変わってきます。

黒井千左氏は、この釉薬の奥深さに魅せられ、伝統的な技術と技法を守るとともに、新たな材料を試すなど研究を続けています。また、成型した器に彫刻を施し、色の異なる土を埋め込んで模様を作る象嵌という技法を新たに取り入れた作品を制作し、虫明焼の世界を広げています。